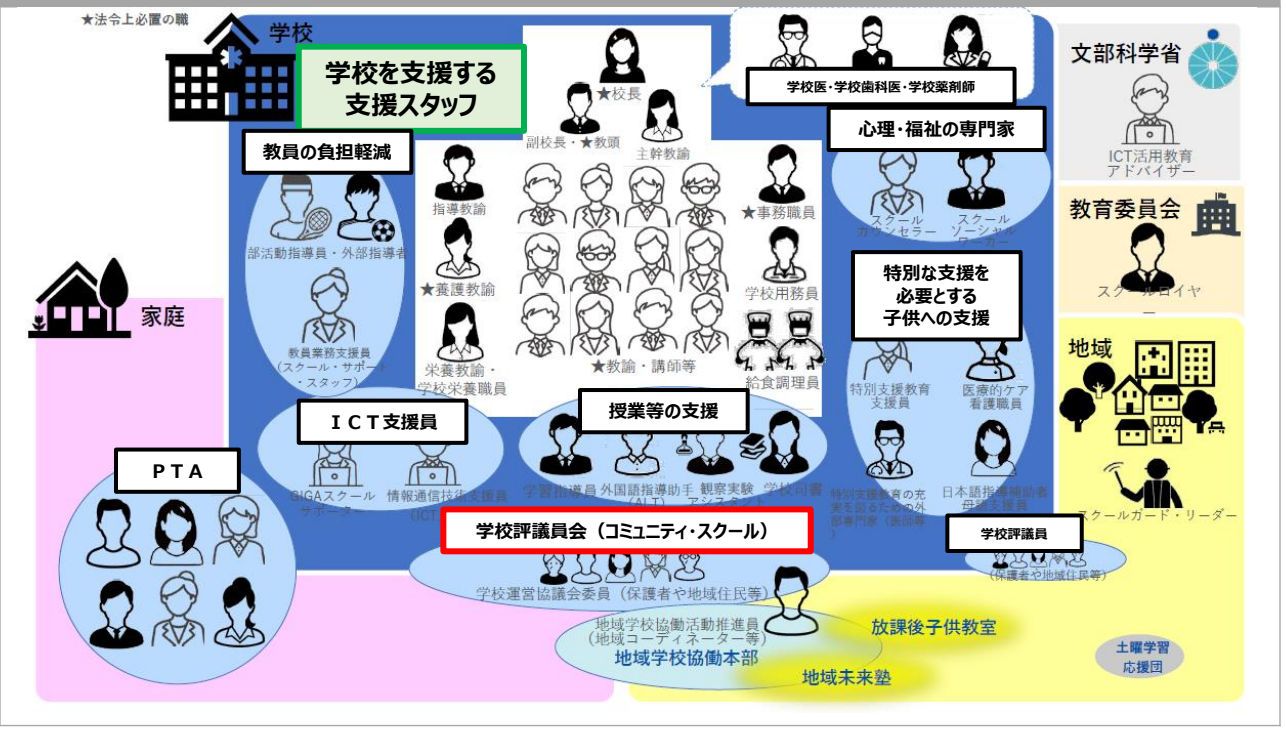
とくしまの学校における働き方改革通信 ～うぇるびーいんぐ～

Vol.１７
令和５年１２月号

今月号のテーマ

「チーム学校」～総合力を高めるために～

学校を取り巻く支援スタッフ等の全体像



※資料引用「質の高い教師の確保特別部会（第6回）」会議資料より

●「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について（平成31年1月25日）」中央教育審議会答申（抜粋）

教師や専門スタッフ等の学校に勤務する多様な教職員が、それぞれの専門的な知識や技能を集約して活用し、地域とも連携しながらチームとして連携協働して学校運営を推進していくことが、教育の質の向上を図るとともに業務の効果的効率的な改善を進め、学校における働き方改革を進めていくために求められている。

●「教育振興基本計画（令和5年6月16日）」閣議決定（抜粋）

教師の養成、採用、研修の改革や、魅力ある優れた教師の確保・資質能力の向上を進めるとともに、学校における働き方改革の更なる加速化、処遇改善、指導・運営体制の充実を一体的に進める。また、ICTの活用、支援スタッフとの連携・分担体制の構築等を通じて、教師が教師でなければできないことに注力できる体制を整備し、教職の魅力向上、教師のウェルビーイングの向上を目指す。

主な支援スタッフについて　～役割を理解し協働するために～

教員業務支援員

○電話対応や急な来客対応なども、先生たちの代わりに行う。
○データ入力や提出物の取りまとめも行う。

先生方の声！
電話への対応や印刷機を待つ時間など、時間的にも心理的にもゆとりを持て、教材研究や授業準備をする時間や児童・生徒に向き合う時間が増えました。

スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）

事例１　支援スタッフとの **連携・協働**
「不登校傾向の生徒に対し、SCの把握した情報を共有し、教師とSSWとが連携してクラスへの登校に向けて支援。」

＃不登校傾向　＃家庭環境　＃ケース会議　＃進路への不安　＃経済的支援

背景

✓ 当該生徒は、小学校のころから友人関係に悩んでおり、中学校入学後も複数のグループを転々としている状況にあった。その中、SNSのトラブルから教室に入りづらくなり、保健室登校になっていた。

↓

SCによるカウンセリング → ケース会議

✓ 当該生徒に対し、SCによるカウンセリングを行った結果、両親の離婚等家庭環境にも課題があることが判明し、SSWによる支援依頼が出された。
✓ そのため、学校において、管理職・担任・養護教諭・SC・SSW等によるケース会議を行い、情報共有と今後の支援の方向性を確認した。

↓

家庭環境に起因する困難の存在とSSWとの協働

✓ 保護者は連絡が取りづらい状況にあったことから、SSWは当該生徒との面談を通して、保護者の状況の確認や接点をもつタイミングを図っていたところ、受験に向けて経済的な心配があるという情報を得られたことから、SSW同席の進路面談が設定された。
✓ 進路相談では、担任から進路について、SSWから経済的支援について情報提供をし、その後も適宜、SSWが保護者と面談を実施することになった。

↓

✓ 当該生徒とSSWとの面談を継続的に実施する中で、当該生徒には言語化することが難しい困り感をSSWから教師に代弁し、教師がクラス内での環境調整を行い、当該生徒は教室に入ることが出来るようになり、希望する高校への進学にもつながった。

（出典）令和4年度「スクールカウンセラー等活用事業」「スクールソーシャルワーカー活用事業」活動事例集

編集●徳島県教育委員会教育政策課
代表メールアドレス　kyouikuseisakuka@pref.tokushima.jp
kyouikuseisaku@g.tokushima-ec.ed.jp（グループウェア）

■ご質問やご感想、また取り上げてほしいテーマをお待ちしています！